

「市長、出勤！まちトーク in 北川副」議事録

令和7年7月12日（土）

北川副公民館

※意見交換の内容は要約しています。  
(太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。)

【意見項目】

- 1 クリークの雑草除去について
- 2 オスプレイに関する相談窓口について
- 3 防災教育について
- 4 下水道管の老朽化対策について
- 5 企業誘致について
- 6 見守りのマインドについて
- 7 川副中央幹線の整備について
- 8 空き家について
- 9 農業の担い手について
- 10 開発の規制について

【意見交換内容】

1 クリークの雑草除去について

こちらに引っ越してきてから 22 年間、自宅裏のクリークに繁茂する雑草を草刈りしていただくよう、毎回市役所に要望しています。防犯上の問題があるほか、ヘビや害虫も私有地に入ってきて困っています。

その都度、要望を出さないと草刈りを手配できないということでしたが、要望を出さなくても草刈りしてもらえる仕組みはできないでしょうか。

(市長)

佐賀市には、合わせて 2,000km くらいの水路やクリークがあり、一円に張り巡らされていることが佐賀の特徴でもあります。

市民の皆さんには 40 年以上も河川清掃の取組みにご協力いただいておりますが、なかなか労力が追いつかないなど、いろんな課題があります。

クリークの水草については、外来種の繁殖力が強いということで、今年は、クリークの浚渫などに使う予算を前年度の 1.5 倍くらいに増やしました。なるべく早め早めに対応できるようにしていきたいと思っています。特に、特定外来生物は繁殖力が強いので、早めに対策できるように、意識してやっているところです。

繁殖範囲が非常に広範囲に及ぶため、一気に対策することはなかなか難しいですが、計画的

に対応することが大事であり、今いただいたようなご意見やご要望をお聞きしながら、状況を確認して、ある程度優先順位をつけながら対応しています。

それから、昨年度から、企業等パートナー制度を設けまして、今は57社の皆さんに協力いただいています。実際に社員の皆様に河川清掃に参加してもらっているところもあります。水路の清掃をすると、水草が大量に出てきますので、作業を楽にする「荷揚げ機」を導入するなど、いろんな工夫を組み合わせながら取り組んでいきたいと思っています。

## 2 オスプレイに関する相談窓口について

佐賀空港にオスプレイが配備されましたが、オスプレイによって健康被害が出てくることが考えられると思います。健康被害が出た時は、佐賀市はどのように対応するのでしょうか。例えば、相談窓口等は設置されますか。

(市長)

オスプレイは、7月9日から順次、配備されています。

「場周経路外の飛行高度は500m以上」として一定の高度を維持して飛ぶとされていますが、音の問題や緊急時のことなど、ご懸念もあると思いますし、駐屯地では、24時間対応する相談窓口を設けて対応していくとされています。

本市では、駐屯地対策室という部署のほかに、駐屯地や自治会長を入れた協議会も設置しています。ご相談事については適宜駐屯地にも伝えてまいります。

## 3 防災教育について

2019年の大雨では膝上まで道路が冠水し、町区内でも車の全損や家屋浸水がありました。市長の話を知っていると対策がだいぶ進んでいるようですし、ここ1年は若干の冠水に留まっているので安心してるところです。

北川副校区では21年前に竜巻災害が起きてから、この時期に学校等でも防災に関する勉強会が開かれるなど、防災対策に取り組んでおられます。

防災についての学びの場となる防災センターを佐賀市内に作って、子どもから大人まで詳しく勉強できる拠点を作ってもらえないでしょうか。

(市長)

防災についての様々な情報を、適時明確に把握できるようにする「見える化」は、非常に大事だと考えています。

一昨年の雨の際は、山間部においてかなりの被害がありました。なかには、「今まで大丈夫だったから」ということで、なかなか避難しなかったという方もいらっしゃるようです。

先週、防災フェスタというイベントがありましたが、防災を身近に学ぶような機会は大事だと考えています。

佐賀広域消防局の中には、「防災学習広場」というものがありまして、どなたでも自由に見学

できます。予約すれば体験コーナーで地震や風水害の体験ができるといった取り組みも行っていきます。

まだ広く知られていない面もありますので、分かりやすく周知していきたいと思います。

それから、スーパーアプリの「防災学習コンテンツ」のように、いろんな形の充実したシミュレーションツールもありますので、簡単で身近なコンテンツも使いながら、いろんな機会を通して「体験する」ということに取り組んでいただければと思います。

#### 4 下水道管の老朽化対策について

埼玉県八潮市において、道路が陥没して死者が出たことは皆さんもご存知だと思います。全国では 300 件ぐらいの陥没があっているという報道もありました。

佐賀市内の下水道管も設置されてから 50 年以上経っていると聞いています。

佐賀市では、下水道管の老朽化に伴って、どういう対策をされているのでしょうか。

(市長)

下水道管は、埋め込んでいる場所や状況によっては劣化が進み、耐用年数を迎える前に腐食するということがあります。

そのような事故が起きないように、管路に腐食や老朽化が進んでいる危険箇所がないか計画的に調査し、早期に発見できるように取り組んでいまして、対応が必要な箇所は計画的に対策工事を行っています。

また、耐用年数を超えない管であっても腐食している部分があれば事前に対策工事を行うなど、事業費の平準化にも考慮しながら計画的に取り組んでいるところです。

大事なことですので、今後もしっかり対応してまいります。

#### 5 企業誘致について

熊本は今、TSMC の進出で盛り上がっています。周辺の関連企業を含めると、最低でも 8,000 人ぐらいの雇用が生まれるのではないかとされています。

それが、福岡や大分、佐賀にも波及し始めているという記事も見ましたが、佐賀市にそういう動きがあるようには感じられません。

働く場所を確保しないと、県外に進学した子どもたちが佐賀に戻って来たいと思っても、なかなか戻って来られないということが現実だと思います。

TSMC が熊本に来たことで、世界的に名だたる企業が製造拠点を国内に移し始めました。そういうダイナミックな大きな動きがある中で、佐賀市がどういう動きをしているのかということが気になります。

働く場所の確保をベースに、市民が未来を期待できるような、ワクワクするようなビジョンをお願いしたいと思います。

(市長)

企業誘致は、とても大事なテーマです。

雇用奨励金や税制の優遇といった助成をすることなどで企業誘致し、この4年で今14社に進出いただき、500名ほどの雇用に繋がっています。

佐賀大和インターチェンジ工業団地は、全区画が既に完売し、全国的なシェアを持っておられる小野建株式会社や、江藤酸素株式会社、株式会社協和製作所などが事業を拡大されて進出されました。

コロナ禍を経て、地方に魅力を感じて進出したいと考える企業は、今後も増えてくると思っていて、本市も、次の産業団地を造成する候補地を選定しているところです。

北部に1か所、南部に1か所というようなイメージで新たに作りたいと考えています。

南部に関していえば、令和4年11月に有明海沿岸道路の諸富インターチェンジが開通し、来年度は川副インターチェンジも開通することで、熊本や長崎へのアクセスが良くなります。

そういうことを頭に置きながら南部エリアの開発が進むよう、今、民間企業にヒアリングしているところです。また、本市の中心部は、IT系の企業がまちなかの便利な場所に関心を持たれる傾向があります。

これまでは、行政がまず場所を確保して、それから民間企業を公募するというやり方でしたが、これからは、オーダーメイド型で、先ほど半導体の話をされましたように、世界的な情勢の中での企業の戦略があると思いますので、そのようなニーズをお聞きしながら開発する手法を検討したいと思っています。

## 6 見守りのマインドについて

皆さんは、水道、道路といったインフラ設備や、防災、治安などといった仕組みは、当たり前前に享受できるものと思われる面があるかもしれませんが、私はかなりありがたいことだと思っています。

ともすれば、そのことを忘れて「足りない」と求めることばかりになりがちですが、ソフト面というか、ハート（心）の部分が大事だと私は思います。

例えば、自らゴミを拾うとか、妊婦さんには優しくするとか、あるいは小さい子どもは騒いで当たり前という考え方だとか、そういうことを見守ってあげられるような考え方について、市としても啓発していただきたいと思っています。

（市長）

毎日の生活をする中での、心の持ちようや考え方などについてのお話かと思っています。

昨年全障スポにおいて選手の方々と意見交換した際に、「心のバリアフリー」がもっともっと進んでほしいと言われていました。

ハード面の「段差解消」などはもちろん必要ですが、ちょっとした声掛けを言った部分が他の国々ではもっと進んでいるということです。日本人は、心は温かいけど、声掛けというところを躊躇してしまう文化、性質だから、国スポ全障スポのような大きなイベントをきっかけとして、もっと「心のバリアフリー」が広がってほしいというお話でした。

イベントなどにパラアスリートの方が参加してもらって、一緒に体験や触れ合いをすることで、お互いの心はどんどん繋がっていくと思います。

少し話が脱線するかもしれませんが、例えば、働いている親御さんであれば、子どもが熱を出した時に、会社に迷惑がかかると気にしてしまうことや、子どもが2人目、3人目となった時に「自分にできるかな」と思ってしまうことがあるかもしれません。

しかし、そのことは、企業や経営者の側に「そういう時は子ども優先でいいよ」というマインドが広がることで、思考の壁を打ち破ることに繋がるのではないかと考えています。

また、「子どもに優しい」という意味でも、子どもたちが騒いで賑やかにしていることが、むしろ、「街にとって良い事だ」というような認識を皆さんに持っていただいて、お互いに支えていける街にしていきたいと思っています。

## 7 川副中央幹線の整備について

新郷本町から南の方へ車道や歩道の拡張工事をされていますが、最終的にはいつ頃完成する予定でしょうか。

(市長)

川副中央幹線のお話だと思います。この路線は、予定では令和8年度ごろまでに完成させるように事業を進めています。有明海沿岸道路の川副インターチェンジと接続する幹線道路になりますので、その開通時期に合わせて整備しているところです。

## 8 空き家について

今、北川副校区では新築の住宅がものすごく増えていますが、これは、他の校区にある実家に親御さんが住んでいて、子ども世代が北川副校区に家を建てているのだと思います。このことは、先々は他校区にある実家が空き家になり、佐賀市に空き家が増えていくことに繋がると思います。佐賀市の空き家について、どのように考えていらっしゃいますか？

(市長)

佐賀市内でも年々空き家が増えていて、今ある3,200件の空き家をなんとか活用していくことが大事だと思っています。空き家の活用、リノベーションの補助、空き家になるかもしれない空き家予備軍に関する相談なども充実させたいということで進めています。

空き家が負の遺産にならないよう、その活用について取組を進めていきたいと思っています。

## 9 農業の担い手について

農業の担い手がいけません。私は今69歳ですが、同世代が今の農業の中心になっています。息子もいますが、継がせたくないと思っています。稼げないからです。

このことについて、どのような方策をお持ちでしょうか。

(市長)

農業の担い手がないということについては、「稼ぐことができない」とか、「重労働」で今の季節だと暑さが深刻だとか、いろんな要因があると思います。

稼ぐという面でお話すると、できる限り稼げる農業、収益性の高い農業で担い手を育成していきたいとの考えで、園芸団地を整備しています。

就農の際の最初のハードルをなるべく軽減して、その上で、収益性の高い農業に取り組んでいただくということで、担い手を育成していきたいと思っています。

また、労働の軽減という面でいえば、AIやドローンなどを使ったスマート農業を推進しています。これらは、機器を導入するコストが結構高いということもありますが、ロボットトラクターなどは非常に作業効率が上がるということですので、今後の規模拡大に繋がられるよう、スマート農業のモデル事例を広げていきたいと思っています。

なかなか次の担い手がないというお話は、おっしゃる通りですので、しっかりと取り組んでまいります。

## 10 開発の規制について

開発に関して、建築基準法に市独自の特例を上乗せする対応ができないでしょうか。

北川副の具体例を挙げますと、私の近隣の方が、家を建て替えたいと市に相談したところ、そこは袋地だから、建築基準法上、建て替えられないと言われたそうです。

最初は住宅が建てられたのに、建て替えができなくなると、解体すれば非住宅地ということで固定資産税が上がってしまうこともあって、結局空き家になります。

本当は建て替えたいけど、それが叶わないという袋地がいくつもあって、困っています。

もう1つ例を挙げますと、取り付け道路の幅員が4m以上ある広い屋敷に10戸ほど住宅を作るということで開発を予定していましたが、隣地に2階建てのアパートができたところ、日照権の問題で開発できなくなりました。

北川副は、非常に住環境が良いところなので、50戸連たんで住宅が増えている地区です。開発の問題が解決できれば、より発展すると思います。

(市長)

国、県、市の建築規制に関することですね。いろんな部局が関係していて、国との調整も必要になります。合理的な新しい取り組みについて研究していきたいと思っています。

北川副校区は、人気がある選ばれる町だと思います。一方で、北川副校区にも多数の空き家がありますので、空き家対策についてももしっかり対応してまいります。